

運営体制

代表理事：田原 総一郎／中村 清吾 事務局長：久保 誠子



2009 JCCNB 事業計画

JCCNB ホームページムページ

- ホームページは <http://www.jccnb.net> です。
- JCCNB で検索可です。
- ホームページには会員申込書も掲載されています。

会 員

会員は、「NPO 法人日本乳がん情報ネットワーク」の目的および、法人が提示する事業計画等の活動に賛同する法人または個人のみとします。また、趣旨に理解を示す法人、または、個人から広く寄付を受けます。

- 1) 会費
- ・法人 年会費一口 50万円
 - ・個人 年会費一口 3万円
 - ・賛助会員 (個人) 年1回 1万円 (一口以上)

2) 寄付支援

随時の寄付のほか、事業ごとの寄付を受けます。医師等医療関係者の参加を歓迎します。患者会ではないので、乳がん治療に関する相談、医師・病院の紹介、患者中心の講演会等催事は行いません。

Japan Comprehensive Cancer Network, Breast (JCCNB)

NPO法人 日本乳がん情報ネットワーク
〒104-0044 東京都中央区明石町11番3号 築地アサカワビル
Tel. 03-6278-0498 Fax. 03-3543-4177

www.jccnb.net

JCCNB(日本乳がん情報ネットワーク)とは

JCCNB(日本乳がん情報ネットワーク)は乳がん患者会ではありません。多様な乳がん治療に関する国際情報を可及的速やかに医療に携わる人達や自立した乳癌患者にネットを通じ、また研究会を通じて発信し、乳がん治療の世界水準に追いつくことを目指すものです。

2009年度 事業計画

1. 国際セミナーの開催

近年、乳癌の治療薬の進歩はめざましく、欧米では、死亡率の低下など治療成績の向上に関する報告が相次いでいます。一方、ハーセプチンなどの分子標的治療薬や新規化学療法剤のコストは膨大で、高額な薬剤費は医療費の高騰の要因となっています。

米国で開発された Oncotype Dx は、ホルモン感受性陽性かつリンパ節転移のない乳癌患者の摘出組織より 21 の遺伝子の発現レベルを測定し、再発リスクをスコア化し、化学療法の上乗せ効果があるか否かを特定します。これにより、従来のガイドラインからの適応に比べ、約 30%の患者が無駄な化学療法を回避できたとする報告があります。一方、オランダで開発された Mammaprint も 70 遺伝子の発現状況から、従来の基準より精度高く、高リスク群と低リスク群に分けることができます。化学療法を必要とする高リスク群を 25%減らすことが可能との報告があります。本法は、2007 年 2 月に FDA の認可を受けました。

これらの検査法は遺伝子レベルでの解析を必要とするため現時点では高額ではありますが、低リスクであることが判明した場合は、薬物療法は不要となります。

オーダーメイド医療によって疾病の診断・治療方法が転換すると予測するものは多いが、この新技術が腫瘍学においてどういった影響をおよぼすかということは、正確にはまだわかっておりません。しかし目新しいターゲット療法が化学療法をしのいで標準治療となりつつあるなかで、腫瘍内にある特定の遺伝子を正確に示すことができるこの技術は、個別ケアへの流れにおいて非常に有益であります。

個々の患者に対して最も治療効果が期待できる治療法を選別する、いわゆる Personalized Medicine において、特に遺伝子解析を用いた方法に着目し、乳がん治療の分野における実態を把握し、臨床および医療経済からも検討したいと考えます。

日時：10月18日(日) 9:30～15:30(予定)

場所：東京国際フォーラム ホール D5

主催：NCCN・JCCNB 共催

テーマ：乳がん治療の効果予測検査法・現状と今後の展望 ～Oncotype DX と Mammaprint 等の比較検討～

対象：医師・一般(ご関心のある方)

入場料：10,000円

スピーカー：<米国側>----- <日本側>-----

Joan S. McClure
(NCCN 副総裁)

Robert W. Carlson
(スタンフォード大学 腫瘍内科 教授)

Craig D. Allred
(ワシントン大学 病理・免疫学 教授)

中村清吾
(JCCNB 代表理事 聖路加国際病院乳癌外科部長)

戸井雅和
(京都大学医学部附属病院 乳癌外科長・教授)

藤原康弘
(国立がんセンター 臨床試験・治療開発部長)

<Oncotype DX>-----

Steve Shak
(Chief Medical Officer of Genomic Health)

<Mammaprint>-----

Laura van' t Veer, PhD
(Head of Molecular Pathology TRNSBIG and
Netherlands Cancer Institute, Amsterdam)

2. 国際会議報告会 (JCCNB セミナー)

欧米の国際会議にて取り上げられる重点項目を中心に会議の概略を報告します。

場所：聖路加国際病院 2階 トイスラー記念ホール

時間：10:00～12:30

スピーカー：中村清吾 (JCCNB 代表理事、聖路加国際病院乳癌外科部長) 等

対象：医師・一般(ご関心のある方) 限定 35名

入場料：5,000円

① サンクトガレン・SSO 報告会 開催日：4月11日

(第62回米国外科腫瘍学会議・Premeeting Breast Cancer Workshop)

② ASCO 報告会 開催日：6月6日

③ サンアントニオ報告会 開催日：12月19日

3. NCCN 乳がん診療ガイドラインの紹介

NCCN の協力を得て、NCCN が作成する米国の「乳がん関連ガイドライン」ならびに「補助療法に関する ガイドライン」を、そして、改訂版もそのつど翻訳し紹介します。

ガイドライン一覧 <HP 掲載済ガイドライン>

NCCN 乳がん関連ガイドライン

- ・乳癌 (Breast Cancer)
- ・乳癌のスクリーニング・診断ガイドライン (Breast Cancer Screening and Diagnosis)
- ・乳癌リスク軽減 (Breast Cancer Risk Reduction)
- ・遺伝的要因/家族歴を有する高リスク乳がん・卵巣がん症候群 (Genetics / Familial High-Risk Assessment: Breast and Ovarian)

NCCN 補助療法に関するガイドライン

- ・成人がん性疼痛 (Adult Cancer Pain)
- ・悪心・嘔吐対策 (Antiemesis)
- ・がんおよび治療に伴う貧血 (Cancer-and Treatment-Related Anemia)
- ・がん関連感染症の予防と治療 (Prevention and Treatment of Cancer-Related Infections)
- ・骨髄増殖因子 (Myeloid Growth Factors)
- ・高齢者のがん治療 (Senior Adult Oncology)
- ・がんに伴う倦怠感 (Cancer-Related Fatigue)
- ・静脈血栓塞栓症 (Venous Thromboembolic Disease)
- ・苦痛緩和医療 (Palliative Care)
- ・精神的苦痛の管理 (Distress Management)

4. 乳がん治療動向調査の実施

JCCNB HP を通じて (一部 FAX により)、乳がん治療に携わる専門医等に対し、症例・治療法・使用薬剤等に係るアンケート調査を行い、回答結果を取りまとめ、分析する。